

## 自己評価表

愛媛県立弓削高等学校

学校番号(18)

教育方針	徳・知・体の調和のとれた、人間性豊かで、心身ともにたくましい人間の育成を目指します。	重点目標	仕事を創りに還りたい人材の育成 —確かな学力の向上とアイデンティティの醸成を通して—
------	--	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
学習指導	家庭学習習慣の確立	面談を充実させ、1年時からの習慣付けと課題の工夫により、平常時の家庭学習時間を <b>120分以上</b> にし、日々記録を取る。 A：120分以上 B：119分～90分 C：89分～60分 D：59分～30分 E：30分未満	A	時間的な目標はどの学年・類型においても120分以上となり、目標達成できているが、学年や類型に応じたばらつきが大きい。進学類型(Ⅱ型)に対する学習習慣の指導はもちろんであるが、就職等の類型(Ⅰ型)への継続的な指導と、学習時間管理の工夫がより必要である。	学習時間記録を、個人端末を活用しながら各学年で実施し、各月で集計を行う。また、課題情報についての共有を行い、生徒の学習量を適切に管理できるような体制づくりを行う。
	教員の資質・能力の向上	生徒理解に努め、個に応じた指導を充実させる。授業評価アンケートで3.6以上と評価される教科の割合を <b>80%以上</b> にする。 A：80%以上 B：79%～70% C：69%～60% D：59%～50% E：50%未満 校内や校外で行われる研修会(オンラインも含む)に積極的に参加し、研修で得た成果を校内で共有する場を <b>年8回以上</b> 設ける。 A：8回以上 B：7名 C：6回 D：5回 E：5回未満	A A	1学期、2学期で合わせて、85%以上の教科で3.6以上を達成している。また、そのうち40%以上の教科で3.8以上の高水準を達成している。 ICTに関する研修や評価に関する研修、交通安全研修など、様々な研修を1年間で13回実施できた。また、次年度のスクールポリシーの検討等を行うことで、教職員の意識統一を図ることもでき、どのような学校を目指していくかを共有することができた。	すべての教科で3.6以上が達成できるよう、教科間での情報共有や指導方法の共有など、連携を図りながら個に応じた指導を充実させていく。 次年度以降も、計画的・継続的に研修を実施していく。さらに、校外の研修会にも積極的に参加し、得た情報を他の教員とも共有できる仕組みを確立していく。
生徒指導	基本的生活習慣の確立	<b>年間欠席日数10日未満の生徒80%以上</b> を目指し、心身ともにたくましい生徒の育成を図る。 A：80%以上 B：79%～70% C：69%～60% D：59%～50% E：50%未満	A	全体として84.4%を達成している。しかしながら、学年によってばらつきもあり、学年や生徒の成長に応じた指導の在り方も検討していく必要があると考えられる。	すべての学年で80%以上を達成できるように、普段からの声掛けや教科・学年を超え学校全体で協力しながら一貫した指導をしていく。
	規範意識の高揚	自らが考えて、交通安全や身だしなみ等の規範意識を高めることができる生徒の育成を図る。	B	自転車安全点検等での交通安全指導や、サイクリストマナーの取組に関するセミナーに参加するなど、交通安全に対する意識の向上を図った。また、身だしなみ指導の回数を減らすことにより、自分で考えて身だしなみを整える習慣付けを行った。	・地域と連携して交通安全教室を開催する。 ・自分が意識しての身だしなみを考えさせる。
	人権・同和教育の充実	人権デーの充実や地域の「ふれあい学習会」を通じて、自他の生命の尊さや人権尊重の意識を持たせる。	B	人権デーでは、前半に様々な人権問題について、後半は講演会やふれあい学習会の予習、復習となるような内容を扱った。アンケートでは、講演会やふれあい学習会の内容が特に印象に残っていることが分かった。また、学んだ内容を日常生活に生かそうとしているという声も多かった。	人権委員を主体とした活動を考えたい。人権デーだけの作成や、活動を企画させるなど人権委員自身が、人権について考え、行動できるようにしたい。
進路指導	進路実現への意識の高揚	生徒の興味・関心を意識し、進路ガイダンスなどのキャリア教育の充実を図りながら、早期に進路目標を明確にする生徒 <b>100%</b> を目指す。 A：100% B：99%～90% C：89%～80% D：79%～70% E：70%未満	A	進路ガイダンスは年間2回実施し、就職希望者には応募前職場見学を促すなど、進路目標を明確にする生徒が100%になり、目標を達成することができた。	年間2回の進路ガイダンスは継続して行い、オンラインでの進路ガイダンスの機会を増やし、早期に進路目標を明確に立てられるような行事を増やしていきたい。
	就職・進学指導の充実	生涯を見通した人生設計ができる生徒を育成し、一人ひとりにきめ細やかな指導を行い、進路希望達成率 <b>100%</b> を目指す。 A：100% B：99%～90% C：89%～80% D：79%～70% E：70%未満	A	卒業生28名全員が進路希望を達成し、達成率100%となった。	就職希望者の面接指導や、国公立大学の2次試験対策など、全教職員が組織的に指導を行う体制を構築することができたため、来年度も継続して行っていきたい。

教育方針	徳・知・体の調和のとれた、人間性豊かで、心身ともにたくましい人間の育成を目指します。	重点目標	仕事を創りに還りたい人材の育成 —確かな学力の向上とアイデンティティの醸成を通して—
------	--	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
特別活動	部活動及び学校行事の充実	部活動で積極的に活動する生徒 <b>100%</b> を目指し、一人ひとりが輝やける場面をつくる。 A : 100%    B : 99%~ 90%    C : 89%~ 80% D : 79%~ 70%    E : 70%未満	A	全校生徒全員が部活動に入部し、そのうち兼部生徒が11名おり、積極的に活動できている(100%)と言える。コロナ禍で参加できる大会や行事に限られていく中、少ない部員数でも地域の大会、行事等に積極的に参加することができた。	できる範囲で他校との交流、地域との交流により、活躍できる場を増やす。
	地域と密着した教育の推進	地域創生に関する課題研究を2件以上実施し、地域を元気にする活動等へ一人年間 <b>8回以上</b> 参加することにより、社会や地域に貢献できる人材を育成する。 A : 8回以上    B : 7回    C : 6回 D : 5回    E : 5回未満	E	新型コロナウイルス感染症の影響で「地域を元気にする活動等」の総数が減少したため、目標達成できなかった(3.6回)。しかし、様々な活動のオンライン化に伴い、参加できるものは微増し、昨年度(2.7回)より参加回数は多くなった。	生徒自身が「地域を元気にする活動等」を創造できるように促す。
教育全般	魅力ある学校づくり	地域人材を活かした教育活動を展開することで、魅力ある学校づくりを推進するとともに、上島町の中学3年生の総数に対する本校への入学生徒の割合 <b>65%以上</b> を目指し、また、県外からの入学生を確保する。 A : 65%以上    B : 64%~ 55%    C : 54%~ 45% D : 44%~ 35%    E : 35%未満	C	上島町の中学3年生の50%が出願しており、昨年度入学生の51%と同程度の入学率が見込まれる。一方、地域みらい留学フェスタに参加したことで、県外(因島以外)からの出願者数は3名となり、因島を含めた県外からの出願者数は8名となった。	上島町内の中学生には「進路実績」を中心にアピールし、県外からの中学生へは「したいことを形にできる学校」であることをアピールする。令和4年度の上島町の中学3年生は28名である。その70%(20名)以上の入学を目指し、県外からは11名以上の入学を目指す。
業務改善	適切な勤務時間	教職員の勤務時間を守り、休憩時間を確保する。業務の効率化を図り、時間の有効活用を図る。	B	10月の職員会議で、令和3年度上半期における勤務時間外在校時間について報告を行い、自身の勤務時間の状況を把握し、校務の適正化や心身のリフレッシュを図るよう周知した。	校務支援システムの活用を推進するとともに、テレワークや時差出勤を活用し、業務の効率化を目指す。
	職場環境の整備	健康管理医による健康相談等を定期的実施し、教職員の疲労や心理的負担の軽減を図る。	B	教職員厚生室からの「健康相談室だより」やメンタルヘルス関係事業・福利厚生制度に関する文書を回覧し、積極的に活用できるよう情報提供を行った。	健康管理医による健康相談の定期的な実施を検討し、メンタルヘルスケアの向上に努める。

※ 評価は5段階(A : 十分な成果があった B : かなりの成果があった C : 一応の成果があった D : あまり成果がなかった E : 成果がなかった)とする。